国 語 科 学 習 指 導 案

日　時　平成２８年　２月３日（水）４校時
児　童　４年生
授業者
場　所

１　単元名　　劇団「Freedom」パンフレット制作～おすすめの脚本を紹介しよう～

２　単元について

（１）単元観

本単元は，　紹介したい本を取り上げて劇を行う言語活動を通して，登場人物の性格や関係性について，会話や行動，場面の移り変わりなどを根拠に読み取る力を高めることや，日常生活とのかかわりを図りながら読書の世界を広げていく態度を養うことを目指している。本単元で扱う中心教材「木竜うるし」は権八と藤六という二人の登場人物の会話のやりとりを中心として構成されている作品であり，脚本としての要素をもつものであると考える。また，性格が大きく異なる二人の人物の性格や関係性を場面ごとの会話や行動などから読み取ることができる作品である。

さらに，場面ごとの登場人物の様子やその移り変わりを読み進めるにつれ，始めの場面では権八が藤六に命令口調であったのが，権八が作った木竜にかかわる出来事を介して，権八の藤六に対する会話や行動が変化していくといったように，二人の関係が対等になっていくことを読み取ることができるようになっている。また，脚本として本教材をとらえると，地の文がなく，ト書きによる場面の説明以外は台詞で構成されていることになるため，児童が新たな視点で文学的文章に触れることができるような作品であると考えられる。これらのような作品の特徴から，登場人物の性格や関係性について，児童が既得の言葉の力を発揮しながら，会話や行動などを基に想像して読み取ることに適した教材であると言える。

（２）児童観

第４学年段階で，児童は文学的文章においては次のような活動を体験し，言葉の力を身に付けてきた。

これまでに体験した活動 ⇨	それによって獲得した言葉の力 ⇨	既得の言葉の力を本単元において活用を図っていくもの
○物語の主人公になったつもりで，出来事を日記にして紹介する活動 ○落語を音読しながら紹介する活動 ○関連する作品を比べながら読み，感想文を書いて伝える活動 ○物語を読み，作品の副題をポップで紹介する活動	○中心人物の行動や気持ちをとらえながら読む力 ○叙述を根拠に場面や登場人物の様子を想像しながら読む力 ○場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちや会話文に隠された人物の思いを想像して読む力 ○情景描写を手掛かりとしながら，登場人物の思いや場面の変化をとらえて読む力	○単元を進めるための計画を立てる力 ○登場人物の性格や関係性をおさえながら，あらすじを読む力 ○登場人物の行動や気持ちの変化を場面の移り変わりとともに読む力

３　単元目標

自分が選んだ作品の音読劇を行う言語活動を通して，会話や行動，場面の移り変わりなどを根拠としながら，登場人物の性格や関係性を読むことができる。

４　評価規準及び道徳的学び

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	道徳的学び
ア　中心教材でパンフレット制作を行うために必要な活動を考えようとしている。	ア　中心教材の人物相互の関係に着目しながら，あらすじを読んでいる。 イ　中心教材の登場人物の会話や行動を表す叙述を基に，登場人物の性格や関係性を読んでいる。 ウ　中心教材の登場人物の会話や行動を表す叙述と場面の移り変わりを関連付けながら，登場人物の関係性を読んでいる。 エ　場面の移り変わりに注目して物語の全体像をとらえ，登場人物の気持ちや関係性の変化を読んでいる。 オ　自分が選んだ関連作品で，中心教材の登場人物の会話や行動を表す叙述と場面の移り変わりを関連付けながら，登場人物の性格や関係性を読んでいる。 カ　自分が選んだ関連作品で，登場人物の会話や行動，場面の移り変わりなどを根拠にし，登場人物の関係性について想像を膨らませながら読んでいる。	ア　聞き手に伝わる言葉の表現を思考しながら，地の文を書き加えている。	１－（５）「信頼友情」 友達に自分のおすすめの脚本を紹介したり，紹介された脚本を読んで感想を伝えたりする。

５　研究とのかかわり

単元の序盤

Ⅲの変容

Ⅰ状況的興味の喚起・維持を促すために

教材名	教材の特徴	指導事項	言語活動例
木竜うるし	登場人物の会話のやりとりから，場面の様子や人物の気持ちを想像しやすい。	登場人物同士の関係を読む力	エ　紹介したい本を取り上げて説明する言語活動

①「言語意識」とのかかわり

単元を貫く言語活動『劇団「Freedom」パンフレット制作～おすすめの脚本を紹介しよう～』を提案する。その際，自分のおすすめの脚本をパンフレットとして教室や廊下に展示することを知ったり，教師が作成した見本を見たりすることで，学級・学年の友達に紹介するという相手意識を具体的にしながら，パンフレット制作への意欲を高めることができるようにする。

②日常の言語生活との関連

「６年生を送る会」や今後の「学芸発表会」の表現と関連させたりしながら，脚本についてのイメージを膨らませるとともに，登場人物の相関図について表された映画などのポスターを紹介し，日常の生活で目に触れることが多いものである意識を喚起することができるようにする。また，読み進めていく「人物関係」という視点に気付き，人物相関図を完成させておすすめの脚本を紹介するパンフレットを作っていくことへの必要性が生まれるようにする。

③単元を貫く言語活動に向けた「やるべきこと」の対話的・相談的な提案

おすすめの脚本を紹介するための計画について交流していく。その際，「脚本の特徴や人物相関図の書き方を知るために共通の作品を読んで学習したい」という思いを引き出し，「木竜うるし」を紹介することで，中心教材を読む必要性を喚起していく。また，人物相関図に表す方法として「登場人物の性格や関係性」が明らかになっていないところを解決していくことを紹介し，計画の立案に反映していくことを促す。

①日常の言語生活との関連を図りながら，言葉とかかわろうとする子供

単元の中盤

Ⅱ個人的興味の出現を促すために

作品と出合う段階	中心教材を読んだとき「なぜ，藤六は権八の理不尽な要求に納得しているのか。」「権八は自分で作った木竜になぜ驚いたのか。」などの疑問が表出されると考える。それを本単元での空所とし，解決すべき「謎」を「人物関係の謎」として位置付け，共有化する。児童がこの「謎」を選択・収束していくために，「木竜うるしを介して行う二人のやりとり」や「人物の性格や一場面と五場面を比較して読み取ることができる相互の関係性の変容」などの解決するために中心となる場面への気付きを促していくことができるよう，教師が意図的にかかわっていく。
作品を読み進める段階	一人一人が発見した「人物関係の謎」を追究していくための方法として，「解決 FILE」を紹介する。それを用いて，個で焦点化した「謎」を他者と共有し，解決に至るまでの方向性を定めたり，新たな「謎」を生み出したりできるようにする。この手立てにより「自己の読みを楽しんだり他者と読む楽しみを味わったりする」きっかけをつくりだしていく。

Ⅱ－(1)内的活動の高まりを促すための工夫

個で読み進める場面では，「謎」を解決するための根拠となる叙述を基に，自分の解釈を構築していくことになる。「登場人物の性格や関係性」とその根拠となる叙述との整合性がとれているかどうかにかかわる発問や問い返しを中心に行い，自己が選択した「謎」についての解釈の妥当性を高めたり，考えを深めたりすることができるようにする。少人数による集団解決場面では，同様の「人物関係の謎」を解決している児童の活動をつなぎ，根拠としている叙述の比較をしたり，新たな叙述への気付きを促したりしていく。全員による集団解決場面では，異なる「謎」を解決している児童の解釈や根拠としている叙述を共有化することで，浮き彫りになった「人物の性格や関係性」と自己の読みとの整合性を図っていく。その際，「権八の気持ちが移り変わっていく様子にかかわる会話や行動」が表れている複数の場面の「謎」を取り上げていくなど，権八の心情の変化や藤六との関係性の変化に着目できるようにする。これらの手立てにより，最終的に個での読みに視点を戻しつつ「登場人物の性格や関係性」についての自己の読みを再構成し，読みの一貫性を高めていくことができるようにする。

【本単元における解釈の「論理的な矛盾・欠落・飛躍」の具体例】

①解釈の矛盾：二人の関係性が「変容している」と読み取るところを，関係性は「一貫している」と読み取っている。
②叙述の欠落：権八の気持ちが変容した叙述として，権八の迷いが表れている「･･･」「（考えていたが）」前後の藤六の台詞に着目していない。
③解釈の飛躍：権八が「自分がした悪さのあまり木竜が動いているように見えた」と読み取るところを「本当に木竜が動いた」と読み取っている。

②自ら言葉にはたらきかけながら，表現をよりよいものにしようと伝え合う子供

単元の終盤

Ⅲ発達した個人的興味の出現を促すために

中心教材で獲得した言葉の力を運用していくことができる本や文章を教師が選書し，児童に提示する。本単元における「中心教材との関連性・類似性」とは文章構造や表現方法の類似性である。これを高めていくために，以下の視点で他作品を選書する。

①会話文が多いなど，脚本としての要素をもっているもの。
②叙述を根拠にして登場人物の性格や関係性を膨らませていくことができるもの。
③登場人物が少なく，関係性を整理していきやすいもの。
④情景描写や場面の様子が表れる叙述があるもの。

【提示する作品】
◆「のら犬」新美南吉　◆「宿屋の富」三遊亭円窓
◆「和尚さんと小僧さん」木下順二
◆「ひとつぶの麦」篠崎徳太郎

Ⅲ－(1)内的活動の高まりを促すための工夫

本単元において，他作品とかかわったときに児童が気付く「関連性や類似性」は会話文の多さなどの「脚本の特徴」にかかわることであると考える。そのため，教師は他作品においても「人物関係の謎」を解決していくことにより，登場人物の相互関係が明確になることに気付くよう意図的にかかわっていく必要がある。主に「関連や類似」を図っていく視点は「登場人物のやりとり」「人物の気持ちや場面の移り変わり」についてである。これらの視点を促すことで，「意識的に」既得の言葉の力を運用しようとする思考を引き出しながら，「人物関係の謎」の解決に向け，自らの力で読みの一貫性を高め，会話文や叙述を根拠に人物相関図を作成していくことができるようになると考える。その際，「人物の性格や関係性」を読み深めるために，それぞれの場面の人物の様子や相互関係，場面の移り変わりを関連付けて読むことができていることなど，中心教材との「関連や類似」を図りながら価値付けすることで，言葉の力の自覚化を図ることができるようになると考える。

③言葉とのかかわり方が分かり，日常の言語生活との関連を図りながら言葉にはたらきかける子供

６　単元の指導計画

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	・パンフレット制作についてのイメージを膨らませながら脚本の特徴をとらえ，学習計画を立てる。	□パンフレットの見本を提示し，パンフレットを作成するために必要な要素を考えることができるようにする。 □関連する他作品を紹介し，単元の終末に向けて並行読書を進めていくことを促す。	関ア
2	・「木竜うるし」を音読して，「登場人物の性格や関係性」にかかわる「謎」について考えながら，あらすじをとらえる。	□「木竜うるし」を読んで「謎」に思う言葉や文章に付箋を貼り，「謎」として位置付けた理由を記述させることで，「登場人物の性格や関係性」にかかわるものであるのかどうかを考えることができるようにする。	読ア
3 4	・「木竜うるし」で「人物関係の謎」を発見して，解決するとともに，「二人の性格や関係性」を解決 File に整理する。	□解決 File を提示し，「人物関係の謎」やその解釈を蓄積できるようにする。 □個に「人物関係の謎」とその解釈の妥当性について問い返したり，同じ「謎」の解決しようとしている小グループの解釈や根拠としている叙述を比較したりしながら，自分の考えを整理できるようにする。	読イ 言ア
5 本時	・解決してきた「謎」とその解釈を交流しながら，「登場人物の関係性」についての考えを見直したり，深めたりする。	□異なる「人物関係の謎」を解決している児童の解釈や根拠としている叙述を取り上げて共有することで，自己の解釈の「矛盾・欠落・飛躍」に気付きながら，読みの一貫性を高めることができるようにする。	読ウ
6 7	・「木竜うるし」でパンフレット制作を行う。	□小グループや全体で交流し，「解決 File」に蓄積してきた解釈をもとに，登場人物の性格や関係性についての自分の考えを整理していくことができるように促していく。	読エ
8 9	・他作品で「人物関係の謎」を解決し，解決 File に考えをまとめる。	□個や小グループに，中心教材で獲得した「人物関係の謎」を解決する視点を促していくことで，「意識的に」既得の言葉の力を運用できるようにする。	読オ
10	・他作品でパンフレット制作を行う。	□自分が選んだ関連作品の「解決 File」に蓄積した解釈をもとに，自分の考えを整理していくとともに，紹介する相手や目的を確かめながら，おすすめの脚本を紹介することができるよう促していく。	読カ

７　本時について（5/１０時間目）

（１）研究とのかかわり

本時においては，主に研究の視点Ⅱ－（１）について手立てを講じていくことになる。

Ⅱ－（１）　「人物関係の謎」を解決して自分の解釈を整理するための方法として，登場人物の性格や関係性を一つの場面について追及する「解決 File～場面研究編」や，複数の場面の移り変わりを読み比べ

る「解決 File～場面比較編」などを用いてきている。異なる「謎」を解決している小グループで交流を行う際には，個や同じ「謎」を解決してきた小グループの考えをもとに，自分の読みやその根拠を伝え合い，「解決 File」に整理していく。

全体で「人物関係の謎」を解決していく場面では，同じ「謎」や異なる「謎」を解決してきた小グループで「解決 File」に蓄積してきた解釈を中心に発言を促す。交流している際，権八や藤六の性格や関係性を解決するために関連性の高い叙述を取り上げて問い返したり，交流後に整理された板書を用いて新たな発問を提示したりすることで，自分の解釈の論理的な矛盾に気付き，読みの一貫性を高めることができるようにする。

（２）本時の目標

中心教材の登場人物の会話や行動を表す叙述と場面の移り変わりを関連付けながら，登場人物の関係性を読むことができる。

（３）本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 肯自己肯定感	評価　個に応じた指導 （△発展的▲補充的）
○前時の学習内容を想起し，人物関係についてのそれぞれの考えを交流しながら，自分が考える人物相関図を整理していく活動の見通しをもつ。 ・前回までは，同じ「人物関係の謎」を解決してきて，ある程度，登場人物の性格や関係性が分かってきたよ。 →異なる「謎」からも同様の人物の性格や関係性が読み取ることができるのかな。 →「謎」についての自分の考えをもっとはっきりさせよう。	□前時において，人物の関係について同質の解釈をしている人とともに人物相関図を整理してきたことを想起させ，本時においても人物の関係という共通の視点で他者と交流することで，より自分の考えが明確になっていくであろうという見通しをもてるようにする。**Ⅱ－（1）**	
人物の関係性についての異なる考えを交流し，パンフレットに書く人物相関図を整理しよう		
○登場人物の関係性について同じ考えをもつ人とグループになり，考えの根拠を明確にしていく。 ・自分の解決した「謎」を比較しながら，全体交流に向けて自分たちのグループの考えの根拠をはっきりさせていこう。 →権八は藤六のことを「自分にとって都合のよい人」だと思っていたけど，藤六の「欲がない素直な人柄」に気付き，「友達」と感じるようになっていったのだと思うよ。 **○グループの話し合いをもとに，登場人物の関係性についての考えとその根拠を全体で交流する。** ・「人物関係の謎」をもとに，異なる考えとその根拠となる叙述について交流すると，自分の考えがよりはっきりしてきたよ。 →藤六の「村のもん、連れて来う。」「いまのままのきこりだけでけっこうおまんま食えるだでなあ。」と権八の「…」「(考えていたが)」「おめえは気だてのええやつだなあ。」などから，権八は藤六の人のよい姿を見て気持ちが変わり，二人の関係が「大事な友達同士」になっていったことがわかるよ。 ○全体交流で整理された登場人物の関係性についての考えと自分の読みを比較しながら，自分の考えに近い解釈を選択する。 ・友達の考えを聞く中で，登場人物の関係についての自分の考えが変わったよ。 →権八と藤六は「信頼し合う」ようになったということが，今の自分の考えに近いな。 →自分は前回から考えていたように，登場人物の関係が「大切な仲間同士」だという考えで整理していこう。 ○本時における自分や他者の読みについて振り返り，登場人物の関係性について考えをまとめる。 ・二人の関係性についての解釈は違っていても根拠となる叙述は同じだったから，自分の「謎」についての根拠は正しいといえそうだな。 ・二人の関係性についての考えは同じでも根拠とする叙述が異なっていたから，それらを参考にして整理してみよう。	□同質の解釈をしている小グループで交流することにより，自分たちの主張を理解してもらうという目的意識をもつて全体交流に臨むとともに，人物の性格や関係性についての自分の考えの根拠の多様性に気付くことができるようにする。**Ⅱ－（1）** □異なる考えとその根拠となる叙述について問い返したり，板書で整理したりしながら関連付けていくことで，自分の考えと比較しながら人物の関係性を明確にしていくことができるようにする。**Ⅱ－（1）** □これまで蓄積してきた自分の「解決 File」と全体交流で整理された考えを比較させることで，解釈の変容や妥当性の高まりに気付いたり，自分の考えをパンフレットに整理していく方向性を定めたりすることができるようにする。**Ⅱ－（1）** 肯本時を振り返り，異なる考えや「謎」の交流を通して，自分の読みの根拠がより明確になったことについての価値付けを行うことで，読みの一貫性を高めたことの自覚化を図ったり，パンフレット制作に向けての意欲を高めたりできるようにする。	▲活動が停滞している児童には，「解決 File」に整理してきた内容を見ながら考えを述べるよう促す。 △視点を明確にして話し合いをすることができている小グループには，考えの交流にとどまらず，グループ全体の考えを整理し相手に伝える方法を工夫していくことを促す。 【読ウ～ 観察・発言・記述】 ▲全体交流の中で聞いたり，板書に整理されていたりする他者の解釈をもとに考えを見直していくことができるようにする。 △自分の考えを効果的に整理できている児童には，パンフレット制作に向けて，相手意識のある言葉を選択していくことを促す。 【読ウ～ 観察・発言・記述】